

能樂圖繪

弋





加茂

前々里女  
同  
加茂神  
加茂神

加茂神の身特に怪むる  
加茂神の身特に怪むる  
加茂神の身特に怪むる

大正四年  
大正四年  
大正四年

耕



加茂神の身特に怪むる  
加茂神の身特に怪むる  
加茂神の身特に怪むる

能樂圖繪



耕漁  




老松

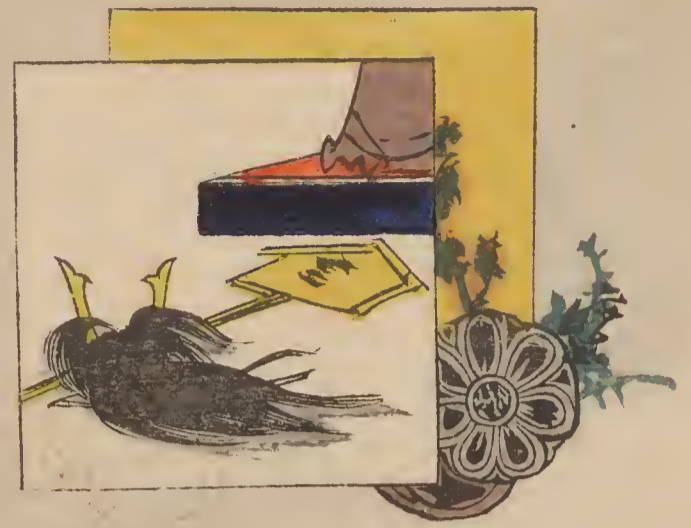
所々  
 男  
 老松の神  
 梅津の傍井  
 前

老松の神盤まらして松橋のめしき  
 謂はれを示す夕名作  
 小も徳川の湯初式に用いられて  
 入り重き位を占む

真白歌扇の類

能楽図繪  
 老松の神  
 梅津の傍井  
 前

能樂圖繪



羅生門

月同日

深

原頼光  
平井保昌  
碓井定光  
上御李氏  
坂田公前

美濃巻  
鬼神  
赤柳

酒宴の興より争海れりて傾ハ  
鬼神の姿を冠んと羅生門に向ふ  
身を作せり此曲武士の人情をせし  
増ておもしろし

大方面し分みの類

耕溪

能樂圖繪

八島

前シ漢夫  
ツシ月  
後シ源義経  
ツシ信  
處ハ讚岐

有名なる八島の合戦を義経の物語ニテ作まり  
勝修羅ニありて祝言能に用ふる事田村  
云ハカ如シ

太天面 平太



又修羅道つとまの声  
さけの音震動ヤ  
修羅の敵い進々な  
教經とくもあつて  
れもの  
其銘  
海山二  
埋臣

全頂あり



耕漢

明治五年十月十日印刷  
全 年六月廿五日發行  
日本橋區青町二番地  
松本平吉製

能樂圖繪

世草心  
盛久

平家侍主馬盛久、四山、長谷下リカ  
白旗信仰止、觀音和盛、より十、改老  
らる、夕、竹、公、於、長門、本、平、出  
お酒、あり

右方振りよ、左方  
こけ如何、御、御、光  
眼、響、かり、取、階、し  
る、夫、力、を、目、に、以、て  
二、つ、打、吹、の、氣、を、ま  
る、は、よ、も、如、所、に、ま、り、ん



耕海  
海

平家侍主馬盛久、四山、長谷下リカ  
白旗信仰止、觀音和盛、より十、改老  
らる、夕、竹、公、於、長門、本、平、出  
お酒、あり

能樂圖繪



此は、早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の



耕漢



世帯心  
 春榮  
 此は、早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の

此は、早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の

此は、早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の  
 舞の早打の舞の



能樂圖繪

有難や天地之動  
身中も感也此妙也  
河原もも津もたの津味  
とよもやうも奥中も  
乃由もやうも野中も  
鏡もあはれ

野守

前シテ  
後シテ  
ワキ

野守鏡の古より古歌と俗説  
とに依り作り古歌の次に見ゆ  
俗説は此強の仕組なりと知るべし

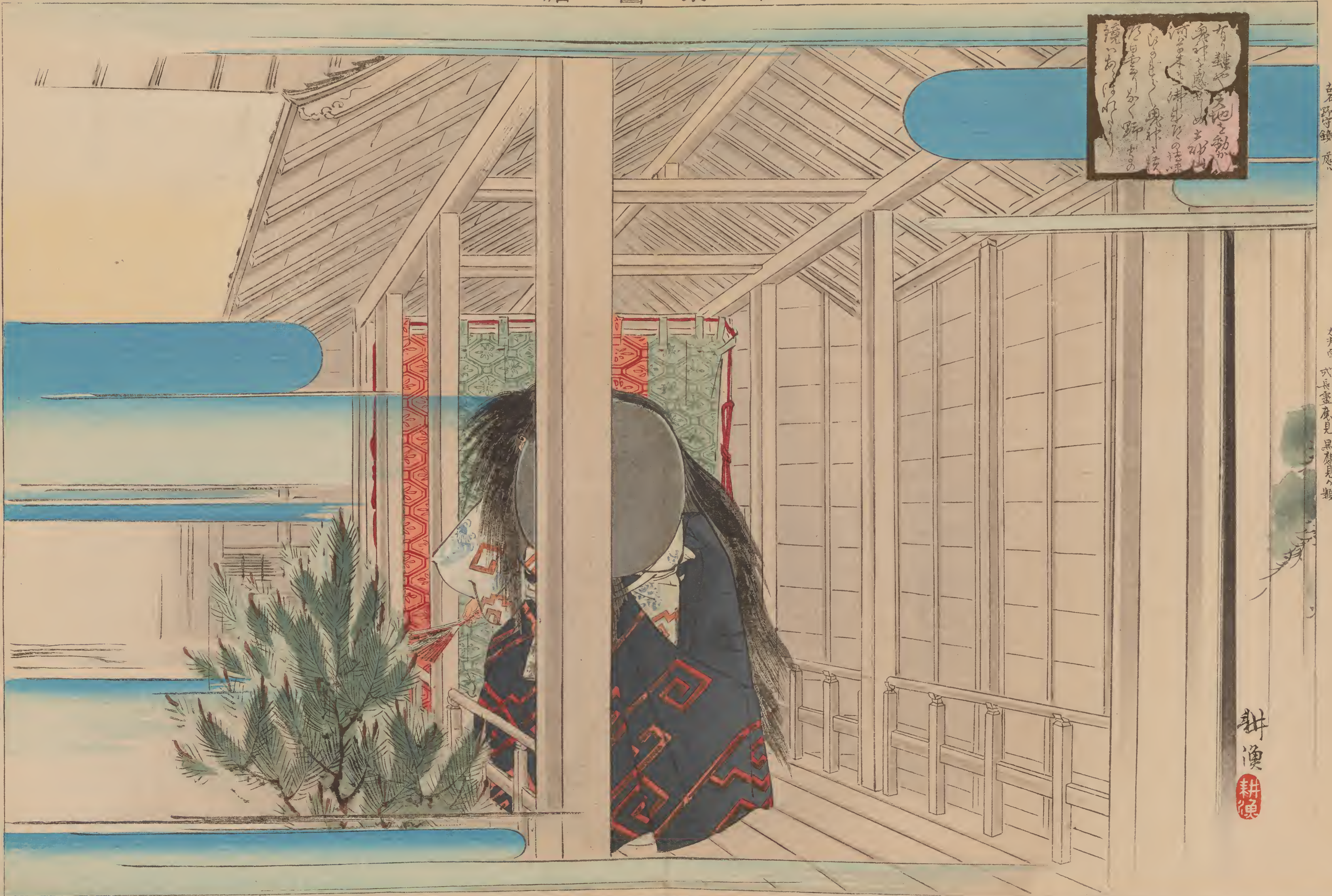
太夫面

小應見

式長靈底見 黒應見の類

耕漢

耕漢



甲吉

能樂圖繪

龍虎

前子 龍夫  
 ツレ 龍虎  
 唐王 旅伴

入唐の龍虎の戦ふ様を  
 眼前に見る事なり  
 作中

ツレ 黒髪  
 太田 獅子口



耕溪

明治三十一年六月一日印刷  
 今 年 五 月 發 行  
 日本橋區吉田町三番地  
 松 本 平 吉 齋

能樂圖繪



夕顔

前シテ 里女  
ワキ 夕顔上  
末 孫傳  
處六 東都

傳 氏持持シ夕顔トシテ三女中將ナリシ人女ハ早ニ父セズイテ中將ノ乳、温ニ睡シ依ハ一カ玉苗ノ君生ナリ  
トモリ中將ノ膝ノ上ニ坐ルアリテ其身ヲ守ルハ、父ハハカニ任所ヲカヘ玉苗ニシテ乳母ニあつテ身ヲカフ 唐ノ一カ玉苗ノ  
依住居セ 昔 氏持ノ立上ルハ、夕顔ノ名ヲ教メテ奉リ、心ヲ寄ルカニ、通シ海小八月十五夜同車ニ乗カシ、院ニテ、  
一十六日ノ夜ハ大リ夕顔ノ上ニ坐シ、夢ニ見ルニ、夕顔ノ名ヲ言ハレ、と云ハ一段ノ物語ヲ同書夕顔ノ巻ナリテ作ルニ  
大面小面妻夕顔

耕漢



能樂圖繪



江口

前シ方  
江口の君  
シシ  
後方  
長  
稲俣

江口の御霊西行法師と欽方かろしき昔昔と云ふ作事より之西行の事なきに誤筆抄より云ふ事  
惟上人云々人曾實菩薩を拜みたる事神念し居りて天童録りて其の安んずる事即ち遊女が故行又百七十八  
心と静み且其は生身曾其白髪をかくて月法介と云ふ遊女へ作事より此曲の文章は二休知照の作事なり  
と云ふ立休は永和此野大徳寺の住持と文明十三年庚申一人  
呂里西次郎云り  
天童壇母女鳥の類 何太夫若一  
依不事吉八

明治三十一年一月一日印刷  
今 年宵香發行 印刷書經行 者  
長瀬區青川町一丁目  
志 才 平 吉 賢

耕漢  
耕

能樂圖繪



八幡  
 神北を編むを...  
 弓矢の守護神は八幡の矢の  
 字の八の字につけて云ふ  
 八幡神の二月と十月の初日の日  
 本大面持波男

耕  
 漢

明治三十年八月廿四日  
 全 三三三 日行  
 上安齋  
 吉 慶

能樂圖繪

沆水羅紋  
海燕回  
柳條牽恨  
到前臺

遊行柳

前テ老人  
後テ柳ノ精  
トテ遊行夫  
實ニ陸奥

遊行上人の法力ニ依リテ心なき柳の  
精までも成佛スルヲモ作ル

太天面亦亦尉又小尉

耕漢



明治三十八年...  
...  
...



能樂圖繪

頼負の妻と云ふ  
 花の生ひたる山吹を  
 折りて  
 山吹の  
 花の  
 生ひたる  
 山吹を  
 折りて

女の花

前々老翁  
 後々小野頼負  
 同妻  
 九十九  
 山吹

耕渙  




恋の途限より身を板けたる女の花の生ひたる山吹を折れり山吹の生ひたる山吹を折れり山吹の生ひたる山吹を折れり  
 男は住みし女と契りし後彼女八幡の端に居りて思ひて八幡の川の端に山吹重なる衣をきて身を板けり花を折り其衣朽ちて女の花生ひたる山吹を  
 又改曆傳りて天國元年小野頼負書化女の花を折れり  
 大天竺八朝倉尖尉頼渙今若頼

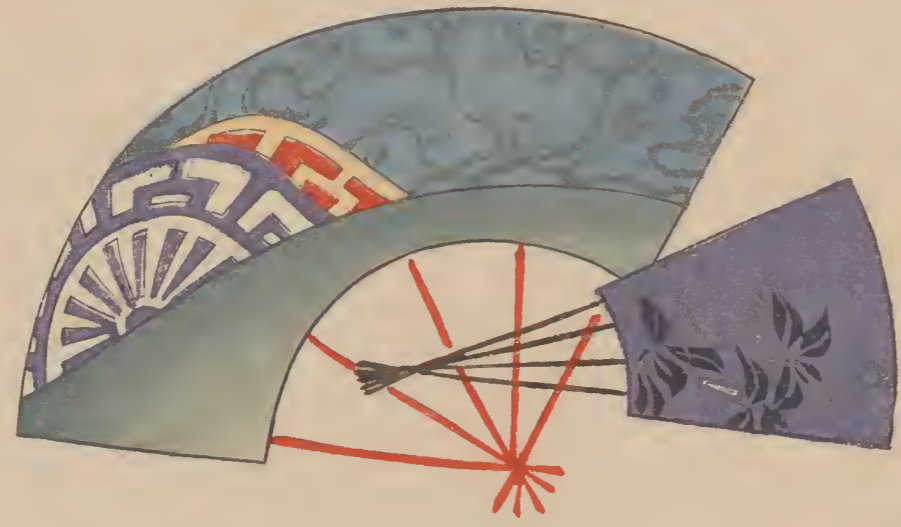
五月五日  
 山吹  
 耕渙

能樂圖繪

土車

シテ  
子方  
狂言  
信濃  
里人  
狂言  
里人  
信濃

庶母リし君人ノ行方を尋ねるため  
土車を執りて、平昔を告めし忠  
僕者子遂に迎ふ方を作す



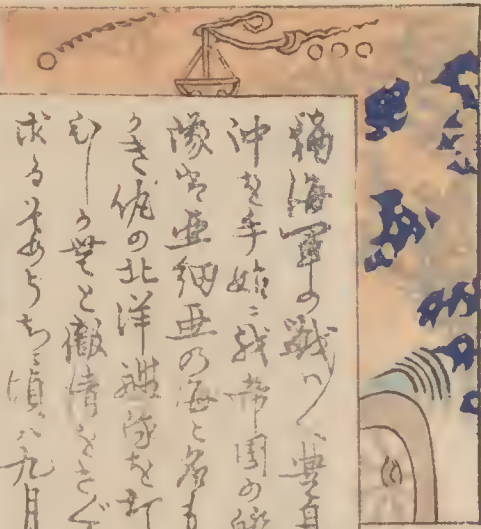
耕  
漢





能樂圖繪

滿海軍の戦つて身島  
 沖を手始に成帝國の艦  
 隊や並細曲の姿と名もた  
 るに依の北洋遊海を打  
 りつとせと激情ととく  
 成るそあち頃ハ九月の  
 半は黄海沖に依り船を  
 らかきとをい見せぬ



新作  
 濟國光  
 中將殿  
 從者

從者宮の市前ニ中將殿日清事件海陸の全勝を説き  
 我皇國の久この忠勇義烈を稱賛——帝國萬歳な  
 きを祝して目録を舞いもをもちるを伴ひたる物にて明治皇の新作なり  
 信時世年十月五日始りて梅若民の舞臺演

耕漢

明治二十二年十月五日  
 年台行  
 吉慶

能樂圖繪

狂言釣瓶

面取白虎主 松瓶

耕澳



明治五年八月十日印刷  
全 年合頁五巻發行 御座魚屋待君

日本橋區寺町二番地  
松本 吉野

能樂圖繪

奈比朝言狂



耕漢



Vertical text on the left margin, likely a collector's or publisher's mark.

能樂圖繪

狂言大盤若



耕漢  


明治三十三年十月十日  
全  
年  
吉  
野  
行  
江  
川  
柳  
屋  
吉  
野  
行  
吉  
野  
行  
吉  
野  
行  
吉  
野  
行

能樂圖繪

狂言舞馬心六



柳渡

明治三十年 己卯 日本橋區吉川町三丁目  
全 年 月 日 發行 尾藤 謹啓

能樂圖繪

狂言金岡



耕漢



明治三十四年五月五日  
 全 年合月十日發行  
 日本橋區本町三丁目  
 本 木 平 吉 繪

